

デンタル・プレゼンテーション

Dental presentation



内山 茂 (うちやま しげる)

1977年 東京医科歯科大学卒業

1984年から2013年 所沢市ウチヤマ歯科医院院長

1998年から 東京医科歯科大学臨床教授

2013年から 東京医科歯科大学臨床研修医指導医

1978年から約20年間母校同窓会で卒後教育の一環として学術講演会の企画運営に当たる。その後開始した自身の講演活動は延べ300回を超え、現在はその経験を生かして、プライベートセミナー、オーダーメイドセミナー等により後進の育成に尽力している。

「デンタル・プレゼンテーション」vol.10

第2部(各論)

<会場はどのくらいの暗さが適切か>

講演会場の照明は・・・手元でメモができるくらいの暗さが最適です。明る過ぎるとスライドが見にくく、暗すぎると文字を読んだり書いたりできません。できれば X線写真を映写するときに関り、会場係に頼んで場内をさらに暗くしてもらいます。関連して視線の向け方ですが、場内が暗いといふ手元だけを見て話してしまうので、意識して**視線は会場へ**向けましょう。これを心がけるだけで、不思議と講演にパワーが感じられるようになるものです。私は落語家の柳家小三治さんのファンですが、彼が調子の良い時は会場のどこに座っても自分に話しかけているように感じ、「今日は気に入ってないなあ」と思う時は視線がボーッと定まりません。名調子と視線は明らかに関係すると思っています。

<話すスピードについて>

NHKの HPによると、NHKのアナウンサーの話す速さは、1分間に 300～350文字とされています。1分間で原稿用紙1枚くらいでしょうか。これには個人差があり、「ニュースステーション」時代の久米宏さんは767文字、NHK「おはよう日本」の三宅民夫さんは541文字、NHK「ニュース7」の森田美由紀さんが466文字というデータもあります。 [▶参考サイト](#)

一概には言えませんが、ゆっくりだなあと感じるのが450文字以下、普通だと感じるのが500～600文字、早いと感じるのが650文字以上と覚えておきましょう。一方、文字を読むスピードは、映画の字幕を例にとると、1秒当たり3～4文字、つまり1分間に180～240文字が標準とされています。私たちは落語家のような話すプロではないので、ゆっくり目に話した方が無難です。私はスライドの解説文を読み上げる時などは、文章をそのまま読まずに、ポイントだけを強調して繰り返すよう心がけています。また、箇条書きなど受講生がメモしたいような雰囲気を感じたら、メモする時間を考えてわざとゆっくり話したり、次のスライドに移るまで少し時間を置いたりしています。

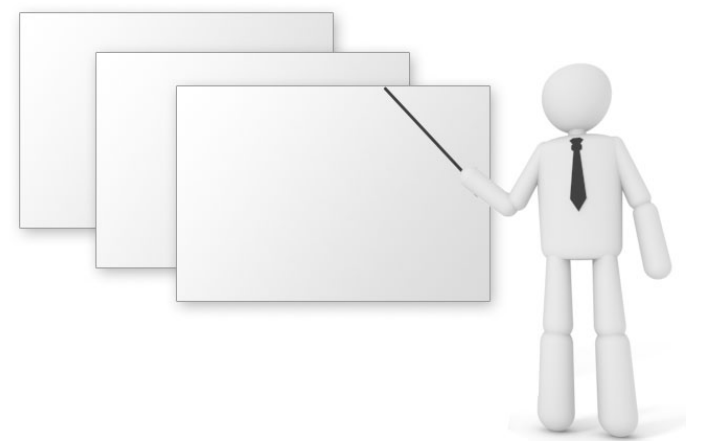
いずれにしても、早口、くぐもった声、高すぎるトーンなどは、せっかくのプレゼンを台無しにします。まずは家族の誰かに聞いてもらうなどして、十分な練習をしてから本番に臨んでください。



<スライド枚数は何枚が適切か>

前項の話すスピードと関連して、プレゼン全体で何枚のスライドを用意するかも重要なポイントです。私の場合は、今までの経験から1時間で150枚前後を基準としています。これを分単位に換算すると1分間に約2枚半、1スライドにかかる時間は24秒となります。私のプレゼンは臨床写真が多く、骨や歯肉の変化を経時的に追ったり、1枚のスライドに小項目だけ表示するものもあったりで、スライド数は多めですが、文字スライドが多く、1スライドで長く話すような内容でしたら1時間で100枚くらいが限界でしょう。

よくある失敗は、用意したスライドをすべて話そうと焦って、最後の方で駆け足になってしまうことです。前回同じようなテーマで話した時の経験を参考に、あらかじめちょうど良い枚数を準備しておきましょう。時間調整の裏技としては、本講演のスライドを気持ち少なめに設定しておき、最後によくある質問を何枚か付け加えておくと、話す速さやメモのための時間などに余裕が生まれます。時間を計算してきっかりの枚数を準備したつもりでも、開始時間が遅れたり、主催者による開会の挨拶が長引いたり、途中休憩が必要になったりして最後に押してしまうということもよく経験します。休憩時間は自分も一緒に休まないで、その後のスライド枚数の微調整をする時間と考えましょう。



“ ピエゾンチップ PS ”

以前に紹介した EMS超音波スケーラー「ピエゾマスター600、同 700」の特徴的なアクセサリー、チップ PSをご案内します。ピエゾンチップはチップ全体にわたって振幅のバラツ

きが少なく、チップの破折も抑制されます。また、継続使用で先端・側面部が摩耗しても、表面性状の滑沢さが維持されます。特に歯肉縁下ではオーバーインスツルメンテーションへの配慮が必要で、表面の滑沢性は重要な要素になります。チップ PSは歯石除去用チップで、これ1本で全顎的な処置ができるシンプルな形態です。



ピエゾンチップ PS